

ワークス系メーカーが手がけたスポーツモデル AMG C36とBMW M3の 走りを磨きあげる



るまでにはあつという間。そこからもうスルスルと伸びつづけ、なんなく240km/hに到達してしまつた。C280に搭載された2.8と直6をベースにボア&ストロークアップを図り、ピストンやクランクシャフト、カムを専用用品に交換した3.6と直6エンジンはもたらす動力性能は一級品だ。

それ以上に、剛性感あふれるボディや路面をカクシツにとらえるしなやかな足まわり、スバ抜けて高い直進安定性などが、その速度域でも破綻のきざしすら見せないことにオドロいた。

メルセデスベンツとAMGの実力を肌でかんじ、こつこつクルマがカタカタモデルとして存在する事実を覚えてくれた1台。C36の印象がいまでも強烈に残っているのは、そんな思い出があるからだ。

**KKK製タービンを装着
まさしく、オニに金棒だ**

トライアルでこのC36を発見したのは1年前。「チューニングショップにめずらしいクルマがあるな」と思つて見ていると、フロントバンパーに「ニスモ風ダクトが追加され、その奥にはなんとインタークーラーがかまえることまで気がついた。

「あ、見つけちゃいましたか。ポルトオントナーボ仕様なんですけど、ガスケツト抜け対策とCPセッティングであずかっているんですよ」とトライアル川端メカ。

この1年でメタルヘッドガスケツトをワンオフ製作し、CPはモータックでの単体制御とすることで、ようやく走れる状態に仕上がつたのだ。

エンジン本体はヘッドも履下もノーマルで、ワンオフEXマニを介してボルシエ930ターボ純正のKKK製